

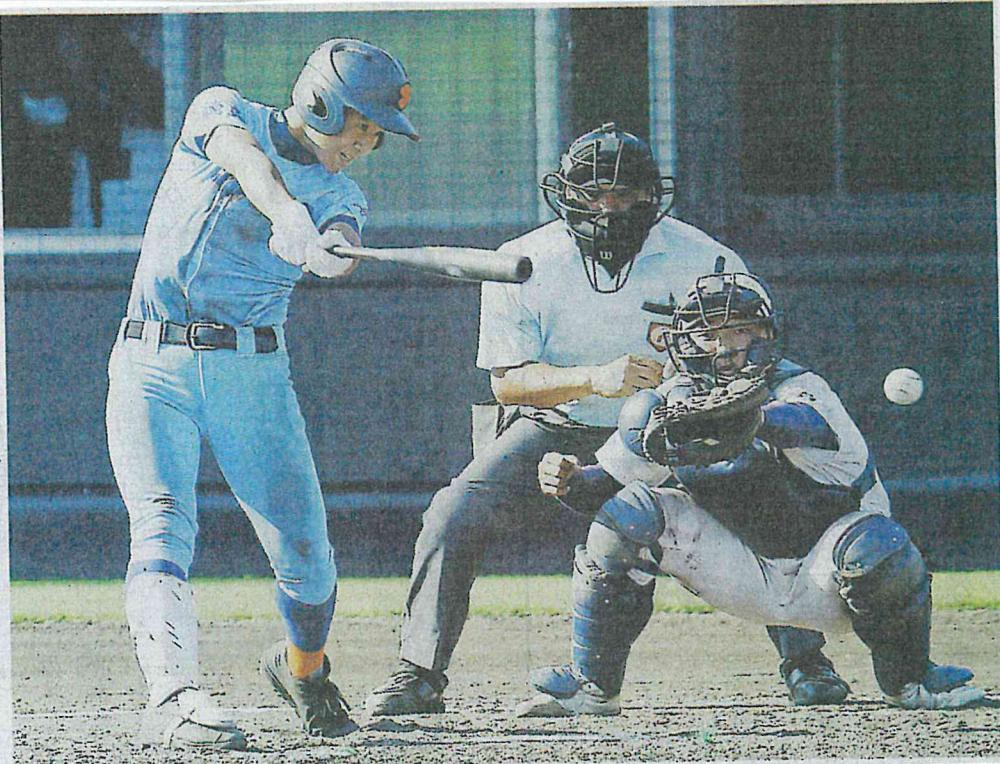
全国高校野球選手権 徳島大会

第
103
回

第10日

高校野球の第103回全国選手権徳島大会第10日は20日、鳴門オロナミンC球場で2回戦の残り1試合が行われた。生光学園が4—3で名西に競り勝ち、ベスト8が出そろった。大会第11日は休養日を挟んで22日になり、準々決勝2試合が予定されている。

ベスト8出そろう



名西対生光学園 5回裏、生光学園2死一、三塁、大久保が左前打を放ち4-1とする=鳴門オロナミンC球場（山崎哲撮影）

生光学園 逃げ切る

名西は追い上げ及ばず

2投手が試合つくる 生光学園

生光学園は3点リードの八回、2死一、三塁のピンチを迎えた。打席には1回戦で本塁打を放った名医の4番馬越。生光ベンチは敬遠を指示し満塁とした。幸島監督は「馬越君に打たれたら相手に勢いを与える。投手の春藤は制球力があり、押し出しはない」と判断した。

七回から登板していた春藤は、次打者の打球を味方がエラーし2点を奪

え「思い切り腕を振れた
と汗を拭った。
試合をつくったのは先
発の奥濱。伸びのある車
球が武器で「きょうは特
に走っていた」と自ら毫
速の141キロを計測し、
6回を投げてスクイズの
1点のみに抑えた。

打線も7安打4得点と効率のいい攻めを展開。二回に2点目の中前適時打を放つた吉田主将は、「好機を確実に生かした上で、投手を中心に守り切りた。接戦をものにした勢いで、さらに一戦一戦全力で戦う」と力強く語った。(木村恭明)

られたが、後続を打ち取つた。名西は村上が粘り強く投げたものの、適時打が出なかつた。

△2回戦

【名】	西山切村馬横小岩栗板失	打安点点口原上越	振球0000000000000000
④	⑤	⑥	⑦
①	②	③	⑧
⑨	⑩	⑪	⑫
⑬	⑭	⑮	⑯
⑰	⑱	⑲	⑳
⑳	⑳	⑳	⑳

【生光学園】打安点振球

由邊村南魚瀬口良保處濱保謹殘
古渡木小安井中谷岸奈大空與空
久
6(4)H4(3)8(7)9(5)R5(2)1H1
盜 23 18 29 7 4 6 5